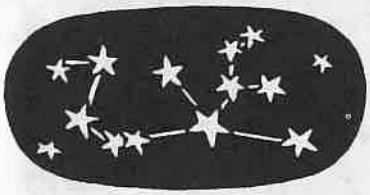
地区広報

すいざわ

7年/10
No.32号

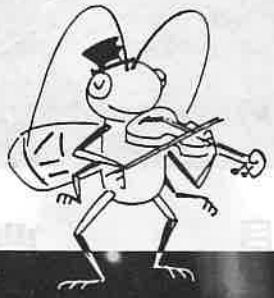
茶屋町　小6年　田中知恵美



チンチロリン・チンチロリン

去る9月23日夜、星の広場で星空を見ながら、秋の虫たちの鳴き声を聞く会が、市立博物館の主催で行われました。当日はあいにくの曇り空で星空は見えず、予定されていた観望会は中止されましたが、先生方の説明のあと、鎌谷川ぞいの草むらで、澄んだ音色で鳴く虫に耳を傾けました。

日本では平安の頃から、宮人たちの間では、秋に鳴く虫の音を聞いたり、虫を飼って放したりして楽しむ風習があったそうです。それは日本独特のもので、なんとも優雅な風情ではありませんか。都会では味わえない、田舎ならではのもので、参加者は満足して帰路につきました。



草むらの合唱鑑賞会と星空の観望会

水沢地区の人口　総数……3,697　男……1,809　女……1,888　世帯数……1,014　(7.9.30現在)

発行　四日市市水沢地区市民センター　編集　水沢地区社協文化広報部　平成7年10月25日

町の歴史　水沢野田町四百年

水沢野田町は、今年開村四百年祭を行いました。

天正十二年二月（一五八四）森長左エ門が、同志二名と宇屋手に移住し、翌十三年に黒田治助が同志十三名と共に新村に移り農地を開きました。

文禄三年（一五九四）豊臣秀吉の行った検地により、石高二百八十石の鈴鹿郡水沢野田村として検地帳に記載され、この年から四百年を経たことになります。

江戸時代には、水沢村が菰野藩領であったのに対し、水沢野田村が亀山藩領に属していたため、その後三鈴村大野から昭和三十二年に四日市市に合併されるまで水沢とは行政区を別にしていました。

現在では、戸数六十三戸、耕地面積五十四haの、水沢地区のなかでも耕地整理、集落排水事業など、先駆的事業に積極的に取り組む、まとまりのある地区となっています。

また、これを記念して地区の鎮守社である愛宕神社の拝殿等が新築されました。

愛宕神社は検地が行なわれた翌年の文禄四年正月二十四日、黒田治助重次が勧請し、愛宕山地蔵大権現を小社に安置した時からはじまります。

新築の愛宕神社拝殿

黒田家に伝わる古文書

天正13年から寛永13年までの水沢野田村および周辺の動向がわかる貴重な史料

水沢野田村ができると、時を違えず作られた愛宕神社は、今の公会所のように村の自治活動のよりどころとして利用され、明治の神社合祀に際しても独立を守り、現在に至っています。途中幾度も改築修繕が行なわれたといわれますが、詳細の程ははっきりとしません。

毎年十月九日に愛宕神社および氏子総代宅にて行なわれている太鼓踊りは、御弊おくりなど民俗学的にも貴重な文化財として今も綿々と受け継がれており、町内行事として定着しています。

〔参考　黒田家文書
水沢村郷土誌稿〕

輝いています　この人

ママさんバレー　インディアカ で活躍中

横堀町　清水　和枝さん

清水さんは、昨年東京で開かれた第二十五回全国家庭婦人バレーボール大会に小山田チームの一員として参加。三重県代表として活躍しました。

中学校からバレーをはじめ、高校、実業団と続け、昭和五十八年に高校の先輩である、現在小山田チームのコーチを務めるご主人と結婚。

育児のためにしばらくコートから離れていました。

ママさんバレーでは、高花平チーム、四郷チーム、平成元年からは現在の小山田チームのエースアタッカーで、キャプテンの重責も果たしています。

また、インディアカ水沢チームにも参加し、昨年の第一回四日市インディアカ大会へは、四人のミックスチームで出場し準優勝と大健闘し、今年の九月十七日の大会でも準優勝しています。

週に四日はバレーとインディアカの練習に参加。家庭では十一歳、九歳、四歳のお子さんの良きお母さんとして忙しい毎日です。「将来、水沢にもバレーボールチームができるといいですね」と抱負を語ってくれました。

水沢夜ばなし　豊田くにゑ

「盆踊り」

「お爺、若い頃にさあ、音頭さんしとったん？」

「あゝ昔のことやて、盆の三が日は、あっちこっち頼まれるまま音頭とりして歩いたもんや。音頭台の上で、三味線・太鼓に合わして、桑名音頭・かわさき・江州音頭・はれわさ、やかを、声張り上げて唄うたもんやさ。踊り手も上手に合いの手いれてのう、幾重にも輪かいて踊りまくったんや。おろしたての藁草履が破れてしまう程じゃでわかるじゃろて。鏡谷社や、源五郎池でも盆踊りしよりよった。

五郎池の盆踊りは、９月１日・２日・３日の三が日、青木川の人達と、四ッ谷の人達が総出したもんやさ。

何処の踊り場でもじゃが、手拍子足拍子も、よう揃うて、唄のくぎりを見計ろうて、踊り手のほうから、

音頭さんええ、一寸かしてなぁ……と、かけようてから即興で、世間の善し悪し、くどきしたり、はやり唄に合わしたりが、ひとしきりあってさ、

音頭さんええ、返したぞなぁ……と、ほいて又唄い踊る、輪の中へ何時の間にやら道化者が簑笠ジバンモモヒキ姿で、なにくわん顔して、入ってきて踊ったり、ほっかぶりに顔かくして、派手な女ご浴衣の帯とけ姿で臍の下あたりに、おっきなもの付けて両手でピクピクさしながら腰をゆするもんじゃで、みんなが大笑いするし、小嬢や小坊はキョトンとしとりよったなぁ。

そんな踊りも、日露戦争そこそこに止めたんやったわ。」

昭和15・６年頃の子供の頃の思い出より。

きれいな水のまちへ

県下の各地で、自分たちの住むまちに適した汚水処理施設を作り、生活雑排水や、し尿の汚水を集めて、農村の水環境を良くしようと、汚水の処理施設の整備事業が急ピッチで進められています。

「農業集落排水事業」もそのひとつです。

当地区の水沢野田町と東町でもこの事業が採択され、平成６年度から工事に着工し約30％進展しています。

平成10年の供用開始に向けて続行中です。

この工事の採択は、市で１年１ヵ所であるところを住民の協力と関係機関の努力によって、２ヵ所同時という前例のない認可を受けて実施しているものです。

農業集落排水事業
水沢野田・東町で着工

自分たちで守る　水環境

私たちの住んでいる周辺の川や用水路の水は、以前はきれいに澄んでいて、そこにはさかなやどじょうがたくさんいました。だから子供たちも安心して遊んだり、さかなを捕ったりしてきました。

農業用水として利用することはもちろん、洗濯や食器を洗うのに利用する家庭もあり、生活にかかせない川でした。

ところが近年、生活の変化と共にこの川が汚染されてきました。

それは、多くは家庭からの生活排水等が原因です。

この汚れた水が水田の作物に被害を与えたり、悪臭を出したりして環境が悪くなり、自然で、きれいな農村らしさがなくなってきました。

しかし快適な暮らし、特に悪臭と不潔さを伴う汲み取り式便所より、清潔な水洗式トイレを望む家庭は増える一方です。

そこで、快適な暮らしを求める一方、安全できれいな川を守るための対策として「農業集落排水事業」が推し進められています。

水沢野田町の工事現場

東町でも工事中

各地区の関心が高まって

＝事業の説明会を開催＝

市の西南部では狭間町が今年から供用開始、続いて現在工事中が、当地区の二町。要望地区が堂ヶ山町、北小松町、鹿間町と続いています。

事業を進めようとすると、採択は、基本的に一年一ヶ所ですから、だんだん先になっていきます。

当地区における事業の採択基準である集落は合計五地区によって進められています。

前述の水沢野田町、東町のほか、宮妻町、西地区（谷・三本松・西條・本町）、東地区（中谷・横堀・茶屋町・四ツ谷）の集落です。

すでに着工の二町以外の地区では順次事業の説明会が開かれ、住民のこの事業に対する関心も高まってきています。

狭間浄化センター

水沢ミニ情報

宮妻から二人そろって農林水産大臣賞

宮妻地区の鎌田喜久さんが全国品評会で、鎌田正敏さんが関西品評会において、お二人そろって「かぶせ茶」の部で農林水産大臣賞を受賞されました。

お二人の家は代々お茶づくりに、熱心に取り組んでおられ、初の受賞で喜びもひとしおです。

喜久さんご夫妻

正敏さんご夫妻

また、水沢のかぶせ茶は全国大会で三年連続の農林水産大臣賞に輝き、産地賞も受賞名実ともに日本一のお茶どころといえます。

今後は、消費者に喜んでいただけるお茶づくりにと意気込んでみえます。

中谷交差点に信号新設

去る九月十九日から、地区内中谷町の宮妻峡線バイパス中谷交差点に、信号機が設置されました。写真

見通しがよいところなのに事故が多発していました。

事故の多くは交差点で起きています。

信号を守り、くれぐれも注意して通行しましょう。

窓

『ノー』と言えない私たち

本音の意見を出すむづかしさ

私たちが地域社会で、地域の人々と円滑な人間関係を営もうとすると、いやがおうにも地域に根ざした様々な組織や団体の構成員とならざるをえない。

たとえば自治会・婦人会・老人会、子供がいれば保育園の保護者会・学校のPTA、あるいは子供会の会員、そして神社の氏子であり、寺の壇家でもある。実に大小様々な組織や団体の一員である。

こうした組織や団体の運営は民主的に行なわれるのがたてまえであるが、会員すべての合意のもとに行うのは大変難しいことであろう。

十人の人がいれば十の考え方があり、しかも家族の間でさえ色々意見がわかれることさえあるのだから。

そのために、通常はその団体の役員が代表で運営にあたり、重要な事項に関しては総会等の場で会員全体の意見を聞いたり合意を求めたりする機会が設けられている。

しかし、その機会に本音で意見を出しあうことができるだろうか。

どの組織・団体も慣例となっている行事、あるいは慣習そのものである運営方法に関して、疑問を感じたり、その方法の変革を必要に思っている会員がいるにもかかわらず、影でささやかれているだけで公の場で、あるいは人前で堂々と意見を述べる人は少ないのではないだろうか。

これらの組織・団体が地域に根ざしているからこそ、自分の意見が地域の人々にどう受け止められるかをおもんばかるからであろう。

地域で長く続いている慣習を自分たちの代でたちきるのは大変な勇気がいる。

「こんなことを、なぜ私たちがしなければならないのだろう」と思うようなことがあっても世間体を考え、地域での付き合いだと割り切ったり、あきらめたりして、人前で意見をいうのをやめてしまう。

地域が真に発展するためには私たち一人ひとりが小さなことでも真剣に考え意見を言う勇気を持ち、充分に話し合うことが大切である。

もちろん様々な組織・団体では多くの意見を率直に聞き尊重しあう民主的な運営が必要なことはいうまでもない。

出来た！芸術作品

陶芸教室開催

陶芸教室は、今回で第七回となり、陶芸家「林克次先生」の指導により多数の参加者で開催されました。写真

九月六・七日の制作、九月三十日の絵付けを経て、十月四日に焼きあがりました。

今回の参加者は二十四名で年齢層も幅広く、はじめての人、毎回参加している人が、様々な作品の制作に時間のたつのも忘れ一生懸命でした。

来年こそは、あなたも是非参加してみませんか。

生活改善運動

ご寄付ありがとうございました

地区社協では、地区の方々からの寄付金を、町民運動会、地区文化祭、青少年健全育成事業や社会を明るくする運動への協力、地域の環境づくりなど、広く有意義に活用させていただいております。

平成七年度（九月末まで）は六名の方から総計十六万円を寄付していただきました。

ありがとうございました。

今後とも「生活改善運動」にご協力をお願いします。

四月一日以降ご寄付いただいたのは、次の方々です。

堤　寛様（谷　町）
鎌田　正敏様（宮妻町）
安井　英二様（本　町）
鎌田　尚香様（宮妻町）
中川　和則様（東　町）
矢田なつみ様（茶屋町）

編集部から

▼昨年に続いて、本年も猛暑となり、連続熱帯夜の記録を更新した。水不足で農作物に被害が出たり、水の大切さを思い知らされた。

▼不況はいまだに解消されず史上最低の金利時代になり、「人にやさしい政治を」という村山首相だが、市民生活は厳しい毎日である。